

日中45周年プロジェクト 黒龍江省

広告

異国情緒溢れる中国最北部の町々 日本との交流も活発な黒龍江省に注目

中国の東北部に位置する黒龍江省は、中国国内では緯度が最も高い最北端の省です。同省は北海道と山形県、新潟県の3自治体と姉妹提携関係にあり、ハルビンと日本を結ぶ航空路線では、東京、大阪、名古屋、新潟の4都市に定期便が就航するなど、日本との経済交流や人的交流も活発に行われています。

東方の小バ里ハルビン

省都のハルビンは、ロシアや日本とも歴史的なつながりが深く、「東方のモスクワ」を象徴する光景です



聖ソフィア大聖堂のシルエットは「東方のモスクワ」を象徴する光景です



「中国で最初のショッピングストリート」と言われる中央大街



ハルビン郊外にあるロシア文化をテーマにした観光風景区「ボルガ荘園」

クワ、東方のモールドバリといった異名を持つエキゾチシズムの溢れる都市で、毎年1月に開催されている「ハルビン氷雪祭り」には、中国内外から多くの旅行者が訪れています。

19世紀末にロシアによる鉄道と町の建設が始まり、それまで小さな漁村に過ぎなかったハルビンは、急激に人口が増加すると同時に、近代的な都市へと大きな変貌を遂げました。

建物と教会を巡る新たな魅力も

現在も賑わうモダンな商店街である中央大街は

「中国で最初のショッピングストリート」とも言われ、15〜16世紀のルネサンス式・17世紀のパロク式・18世紀の折衷式・19世紀の新芸術式など多種多様な建築が立ち並ぶ通りは、建築芸術の博物館という異名を持つ街地であって、ハルビンの市

ひととき目を引くのがロシア正教の教会である聖ソフィア大聖堂です。ドーム屋根にレンガの外壁という建物は、2000人もの信者を収容できたという大きさで、現在はハルビン建築芸術館として開放されています。また、聖ソフィア大聖堂だけでなく、ハルビンには19世紀末から20世紀にかけて移り住んだロシア人などが建てた複数の教会も現存しており、建築時期や建築様式の異なる建物や教会を巡りながら歴史を辿って、ハルビンの新しい魅力を掘り起こすことも可能です。

黒河や牡丹江も拠点として期待

黒龍江省の北部に位置する黒河は、黒龍江(アムール川)を挟んで対岸にロシアを臨み、両国間の交易も活発なことから多くのロシア人やロシア文字が目に入ります。5月から10月までは、遊覧船に乗ってロシア側の様子を間近に見ることもできます。

黒河の中央街は歩行者天国になっており、夜になると露天や屋台が軒を連ね、中国で流行している広場舞に興じる女性たちや酒場に繰り出す若者の熱気がある。国境の町の情報も味わえます。

黒龍江省南東部の代表的な都市である牡丹江は、日本統治時代に町の基礎が



ロシア舞踊を披露する女性たち(黒河)



牡丹江の南西100キロにある鏡泊湖の吊水瀑布

造られており、日本人には馴染みの深い土地柄です。7世紀末に中国の東北方に勃興した渤海の遺跡を訪ねる際の拠点となるほか、牡丹江の南約30キロには、吊水瀑布で知られる鏡泊湖もあります。

黒龍江省の奥深い魅力を体現する北部や南東部へのツアーの拠点として、黒河や牡丹江の存在感が高まることも期待されるでしょう。



「世界4大氷雪祭り」に数えられる「ハルビン国際氷雪祭り」